令和6年第3回定例会

美郷町議会会議録(第2号)

令和 6年 9月 5日

美 郷 町 議 会

令和6年第3回美郷町議会定例会会議録（第2日目）

令和6年9月5日（木曜日）

◎開会日時 令和6年9月5日 午前10時00分 開会
◎散会日時 令和6年9月5日 午後2時20分 散会

◎出席議員（10名）

1番 若杉 伸児 君	2番 早川 節夫 君
3番 中田 武満 君	4番 兒玉 鋼士 君 午後・欠席
5番 山本 文男 君	6番 中嶋奈良雄 君
7番 川村 嘉彦 君	8番 甲斐 秀徳 君
9番 川村 義幸 君	10番 那須 富重 君

◎欠席議員 なし

◎欠 員 11番 小路 文喜 君

◎事務局職員氏名 事務局長 沖田 修一 君 書記 川西ゆきみ 君

◎説明のための出席者職氏名

町長 田中 秀俊 君	副町長 藤本 茂 君	
教育長 大坪 隆昭 君	会計管理者 泉田 浩文 君	欠席
総務課長 甲斐 武彦 君	税務課長 川村 博昭 君	
企画情報課長 田村 靖 君	町民生活課長 黒田 和幸 君	
健康福祉課長 海野 勝弥 君	建設課長 佐藤 文幸 君	
農林振興課長 松下 文治 君	政策推進室長 田常 浩二 君	
教育課長 鎌田 次郎 君	地域包括医療局事務長 田原 裕亮 君	
南郷地域課長 田中 幸生 君	北郷地域課長 長田 孝規 君	

◎会議の経過 別紙のとおり

令和6年第3回美郷町議会定例会 議事日程（第2）

令和6年9月5日
午前10時開議

日程第1 一般質問

5番 山本 文男 議員

1. 雄滝アクセス作業路の町道認定について
2. 男女共同参画推進について

8番 甲斐 秀徳 議員

1. 鳥獣害対策について
2. 栗ドローン防除について

9番 川村 義幸 議員

1. (一社)美郷町観光協会の必要性について

6番 中嶋奈良雄 議員

1. 農業の担い手の対策と育成対策について
2. 農業資材の物価高対策について
3. 農家所得の安定化について

会 議 録

令和6年9月5日
午前10時00分開議

【事務局長 沖田 修一】

「一同起立・礼」おはようございます。御着席ください。

【議長 那須 富重】

おはようございます。

本日は、一般質問であります。

ただいまの出席議員は10名であります。泉田会計管理者から身内の不幸のため欠席の申出がありましたので、これを受理いたしました。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付の議事日程表のとおりであります。

広報用の写真撮影の申出がありましたので、これを許可しました。上着を脱ぎたい方は脱ぐことを許します。

日程第1 一般質問です。

今回、一般質問の通告のありました議員は8名であります。

本日は、4名の一般質問を行い、残りの4名は明日、一般質問を行います。

通告順に一般質問を行います。

通告順に質問を許します。

5番、山本 文男議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

本日もよろしくお願ひします。2問お伺ひいたします。

まず、雄滝に通じる作業道の町道認定についてお伺ひします。

通告書を読み上げていきます。

北郷小原区中心集落から清川谷に沿って約2キロメートルの作業路があります。その終点付近には雄滝と宇納間簡易水道の水源取水施設があり、水源管理道としても利用されています。作業路入り口の県道には雄滝の標識があり、いつ設置したか分かりませんが、県も優れた景勝地だと認めていたものと思います。

住民は雄滝が地域振興の資源となることを願って町から生コン助成を受け、約100メートルのコンクリート舗装、歩道の整備、観望の妨げとなる支障木の伐採、大師堂の建設等を自力で行ってきました。しかしながら、作業路受益者や住民の高齢化による管理不足によって道路の傷みが激しく、地域住民の心のよりどころとなっていた雄滝は南米のインカ遺跡のように森の中に埋もれようとしています。

優れた観光資源へのアクセス道であり、町の水道施設の管理道でもあることから、この作業路は町道の路線認定基準に関する規定において、町道として認定が可能で

あるかお伺いします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おはようございます。今日、明日にかけて一般質問ということでありまして、通告者が8名でありますので、是々非々で討論ができればいいかなと思っております。通告者に対しましてお礼を申し上げます。

それでは、山本議員の質問であります。今回、議員が質問されている路線について、現地での確認これまでの経緯について御説明をさせていただきます。

当路線は、接続する県道宇納間・日之影線を起点として、人家が2戸、その奥に農地、用水路が整備されております。

また、人家の出入口付近は路側と護岸との併用の構造物が設置されておりますが、昭和57年に清川、谷川が台風により被災を受け、昭和61年から平成6年にかけて、荒廃砂防事業により、堰堤、流路工、護岸整備工事が当時の県土木部で施工されております。

当時の施工により、起点側の人家がある周辺はガードレール、アスファルト舗装が一部施工されております。奥には、自然の造形によって造られた雄滝があります。景勝地ではありますが、自然環境の保護として、県が指定し町が管理している環境保全地域の指定区域ではありません。また、町が管理している水道施設もありますが、大雨等で被災を受けた場合はほかの地区施設と同様に、その都度、担当課が整備をしている状況であります。

今回、当路線について検討した結果、美郷町町道の路線認定基準に関する規程第2条の「町道として認定する道路は、交通量、人家の有無等を考慮し、公共性を有するもの」となっており、第1号から第5号の町道の路線認定基準に関する規定の要件に一致しないとの判断をいたしたところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

資源管理道等、観光資源の面、2つの面からお伺いします。

まず、資源管理道についてです。

この道は水道の管理には欠かせない重要な道であり、担当職員も年に数回、点検作業等でこの道を利用していると聞いています。私も台風10号の前、この道を通ってみました。雨水に洗われて陥没が激しく、四駆の軽トラで終点まで何とかたどり着けました。このまま住民も町も手をつけず放置した場合、点検作業にも支障を来すと思います。

町も積極的に保全整備する責任等、義務があると思いますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

水道関係の水源地として取付道路が悪いという話になりますが、町で今、23か所の水源地の管理をしております。その中で町道・林道が13か所、作業路が10か所になっております。これが全てどうなっているのかという話で、町道等は整備がされ、また作業路等はこのような状態であるという話であります。

今後どうしたらいいかということになりますが、この道自体が最終的に何をしたいのかという話になります。水源地の管理道路なのか、それとも、今度は違う用途を兼ね合わせる道路なるのかという話になると、全く変わってくと思います。

そういった箇所は、まだまだたくさんあると思います。今後考えていくとすれば、包括的、ある程度大きな枠の中で考えて、要綱等を作成し対処していくという話になると思います。

確かに議員がおっしゃるように、今のような気象状況の中で非常に荒廃してなかなか管理が難しいということも実情もありますので、考えていく必要はあると思います。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

確認しますが、検討して町道の認定基準に関する規定を変更する可能性もあるということでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

町道としての認定は難しいということでもあります。先程言いましたように、どういふものを抱き合わせ、どういふ目的のためにしていくのかとをしっかりと考えていく必要があります。今ある町道に関する規定に照らし合わせていくと、認定することは難しいということでもあります。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

今度は観光資源の面から考えていきます。

私の地元の「ちくせん」の会議で、雄滝を活用できないかという意見が出ました。

しかし、雄滝に通じる道が、狭隘で普通車の通行が厳しくてアクセスがネックとなって絶好の観光資源でありながら広く周知することを控えざるを得ないのが現状です。滝マニアもいるようです。この道に入り込んで動けなくなった普通車を、地元の方が救出したことも何度もあります。

総合計画があります。これはホームページでも閲覧できますが、その中の観光振興にはこう書かれています。「町内には多くの景勝地、重要文化財など歴史的な文化財が点在しており、これらの適切な保全に努める一方、観光資源として活用していくことが必要です」と書かれています。そして景勝地として、渡川、白水の滝、おせりの滝と並んで雄滝も記載されています。総合計画には、景勝地として雄滝の名前も記載されています。

そして、もう一つの美郷町景観条例というのも調べてみました。

議員の皆様は、この例規集に興味がある方は例規集の「11245」に景観条例が載っています。

その景観条例の第3条には、「良好な景観は潤いのある豊かな生活環境の創造、観光など、地域の活力の向上に大きな役割を担うものであることに鑑み、町民が愛着と誇りを持てる景観が将来にわたって継承されるよう、町、町民との協働によりその整備及び保全が図られなければならない」と書かれています。

景観の整備と保全にはまず道路の整備が必要です。

以上、雄滝が住民の心のよりどころであり、優れた景勝地であることを考慮し、現行の町道の路線認定基準に関する規定の改正に向けた検討をしていただけないものかと伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

景観条例ですが、景観条例、美郷町全体を含んでいると私は認識をしております。ただその中で、特に伝承されている御田祭や師走祭り、そして地藏尊大祭は特にという話で景観条例があると思っております。

この景観条例ですが、なぜできたかという話であります。日本国は何でもかんでも造っていいという話の中で、ヨーロッパのように自然が残されていない、建物が残されていないということで、何でもかんでも造っていい国だという形でやゆをされた時代があったような気がします。それに対応した景観法という法ができ、それに基づいて条例ができたという話であります。

そういう景観法というか景観条例というか、雄滝が雌滝があるという話であります。もし考えていくなれば、文化財保護条例の中で雄滝や雌滝をその町の文化財として指定して、その文化財に行くがための道としたほうがいいのではなかろうかという気はします。先ほども言いましたように、何をもってと、どういう道路の目的をかみ合わせていくかという話で整理したほうがよりいいのではないかという気がしております。私としては、そういう方向性を持ったほうがいいのではなかろうかと。その規定を変える、そこまでは考えておりませんでした。これは建設課等々と、県土木部等々と決めて、簡単に変えられるのかどうか分かりません。その辺の検討も必要になってくると。

しかしながら、それを変えていって、ある程度幅が緩くなっていくと、町道認定をたくさんしていかなければならないということになります。あそこが町道認定になって、ここが町道認定にならないのかという話になります。今度は町の経費、維持管理していくための経費も多くなまます。どういう形で進んでいったほうがいいのか少し検討させていただきたいと思うところであります。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

残念ながら、この美郷町の景観計画にはおせりの滝、観音滝、渡川の白水の滝が掲載されて、雄滝は掲載されておられません。しかしながら総合計画には記載があります。総合計画には「適切に保全を努める一方、観光資源として活用していくということも必要です」と書かれています。保全するには通う道路も必要です。町長は、規定を変更するのはハードルが高いかもしれませんが、どういう方向に進めていくか、もう一度お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろな道路が存在しています。議員がおっしゃる雄滝があるからこの道をどうするのか、水源地があるからこの道をどうするのか、いろいろな目的のためにその道が存在しているという部分で重なっている、用途がいろいろな形で重なっているという話であります。

水源地に行くだけの話ではありません。こういう作業道については、もともと私道で、その受益者が管理していくのが前提になっております。そこを一応置いておいて、やはりこの観光資源の創出、もし文化財に雄滝を指定したということになれば、今度は観光面からの道路の整備になろうかなと思うところであります。

この雄滝に通じる道、手前側と上がっていく道はちょっと様子が違うと思います。この道に限定していけば、どういう形で整備していったほうがいいのか考えていく必要はあると思っております。

ただ、これがこうだああだという話の中で整備するということは、今すぐには私の頭にはありません。やはり議員が言うように何をもって一番ここをしなければならぬというものが明確になっていく必要があるのではなかろうかと思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

何かうまく理解できませんでしたけど。

現状は、水源地の点検も困難な状態です。道切りもしていない状況です。たまたま私が行ったときは、前の区長が道切りをしていただいて通れました。

宇納間簡易水道は、北郷の多くの世帯に通じています。緊急を要する場合が発生したとき、点検にも行けない、徒歩で何とか行けるような道をこのまま手をつけずに放置しておいていいもののでしょうか、そこをお伺いしたい。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員がおっしゃるようにそのまま放置していいのかという話になると、それはいけないと、これは明白なことであります。

議員が言うように、この道を町道に認定できるのかできないのかという話の中で、

その規定の中では難しいという話をさせていただきました。

どうするかという話であります、先程の水道で話せば23か所ある中で、10か所ぐらいが作業路、作業道という話になっております。その水源に行く道路で考えた場合に、どういう方法があるのかということです。

また、プラスアルファとしてこの雄滝という観光資源を生かすために、もう一つつけた場合にどういう形をしたほうがいいのか考えていく必要があります。

私が北郷に勤務していたとき、雄滝の下に太子堂があります。鎌倉初文さん達が、ずっと管理していたので、滝だなど知っています。

そして、そこから雌滝も見えるというお話でありました。向こうからは見えないのか、雄滝があつて雌滝があつて、雌滝はどこかという話をしました。雄滝ばかりしていいのかという話、雌滝もということではまだないということでもあります。

話の中で、この道をどういう形で考えていけばいいのか、水源のことになれば、残りの10路線も同じような形を取らないと緊急時に間に合わないということが出てくるのかなと思うところであります。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

雌滝はもう清川・松の下林道のすぐ上です。

そういうことでしたら、点検道と観光資源、両方の面から整備ができるか検討していくということでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう形で検討をさせていきたいと思うところであります。

ただ、小原区から要望が出てきてます。それについて回答をしているところでもあります。しかし、それは応急的なものにしかないのかなと思うところでもあります。もし観光用道路と兼務するなら、やはり来た人が「この道は悪い」と思うようであれば少し問題かなという気もいます。今後はその部分を関係課と検討していきたいと思うところであります。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

次に、2問目に移らせていただきます。

【議長 那須 富重】

2問目の発言を許可します。

【5番 山本 文男】

続いて、男女共同参画推進についてお伺いします。

令和4年12月開催のまちづくり懇話会で女性の委員の方の要望がありました。少し長いですが、議事録を読み上げます。

リクエストがある。本日、A委員がお子さんを連れて出席されているが、本当に難しいことで、自分も経験したが、このような会議に子供を連れてくることは当たり前ではなくて、子供をそばに置いて長時間会議に出ることは本当に大変なことである。会議の案内で「ぜひ参加してください」とあったと思うが、「じゃあこの子はどうしよう」と考える。保育所も利用しておらず、もし会議の時間だけ保育所に預けようとしたら1週間前ぐらい前から手続が必要であったり、預けることも可能かどうかは向こうの事情に合わせなければならなかったりがある。会議に連れてきて子どもがじっとしていられるのかとか、自分が会議でうまく発言できるのかとか、すごいプレッシャーがあるが多分言えないと思う。子連れで会議に出席するのに、すごいハードルを越えてきている。

また、会場を見て分かるが女性が少ない。これは、女性が出てきたくないという訳ではなくて、この町の仕組みがそうなっているから女性が少ないということが事実である。だから「声を出してくれ」ではなくて、「なぜこういう状況になっているのだろう」と冷静に分析してみることが必要だと思う。

今後、まちづくり懇話会だけではなくて、町主催の会議で子育て世代の方に参加してもらおうとする際に、保育所を利用されていない方がいらっしゃったら「保育をどうされますか」と一言声をかけるとか、その時間は町として保育所で子どもを預かるとか、子育て支援センターを開設するとか、ほんの少しの声かけでどうにかできるのではないか。

会議に呼ばれている側が、保育料を出して保育所に申し訳ないが預かってもらえないかとお願ひしないといけない。預かってもらえるのかとの不安もある。自分も教育委員として会議に出席する際に物すごい葛藤があった。こういう声はなかなか出せない。

美郷町は柔軟に声を聞いてくれるので住みやすいということで楽しく住ませてもらっている。この場所がより楽しくなるように、居心地よくなるように皆さんの力添えをいただけたらと思う。

このように書いてあります。

この方には、議場で読み上げることについては許しを得ています。

そのリクエストに、事務局である企画情報課が答えています。

「非常に重要な指摘だと受け止める。会議の代表に限らず同じような懸念があることを主催者側がしっかりと認識することが必要と考え、共有して、今後、生かしていきたい」、そしてその他として、「本日の意見等は議事録にして町長以下職員で

共有し、今後に活用していく」とあります。

令和4年に、このような要望があったことに私は気づきませんでした。自分の不名誉を恥じるばかりです。女性が参画しやすい環境づくりが大切で、女性の子育て世代の委員の参画推進のためには、ぜひ検討すべき課題だと思います。その後の町の対応について説明を求めます。

【議長 那須 富重】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

このAさんが言うとおりでと思います。そしてまた、議員がおっしゃるとおりだと思います。

その後、全職員に対し小さなお子様を持つ委員の会議への参加等について、男女共同参画の推進の観点から配慮が必要でありますので、各課において可能な範囲での対応を指示しました。

その後の具体的な対応例を挙げますと、本年3月のちくせん交流会において授乳室やキッズスペースを設置し、子育て世代に配慮した対応を行いました。

また、令和3年10月に開設した子育て支援センターに対して、事前に開催通知を町のSNSで発信し、子育て世代の利用促進のみならず、役場主催の会議日程が調整可能となるよう配慮を行っているところであります。

議員のおっしゃるように男女共同参画社会という話の中で、やはりお子さんを持つ女性の方、そして子育てに力を入れてる国また市町村であります。議員おっしゃるように、そういう配慮は今後も必要かと思います。

こういう場所をつくれという話ではありません。その時に預かりなど対応をどうするのかという話であります。議員が今言ったような形で、お子さんを預かって若い女性が会議に出席できるような体制を整えていきたいと思っています。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

分かりました。対応の仕方はいろいろ述べられました。その答弁書を全部書くことができませんでしたので、もしよければ後で総務課長、頂けませんか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そのときのコメント。コメントって、その来た。

【5番 山本 文男】

どういう対応をしてきたか。

【町長 田中 秀俊】

その対応の方法を全部、出してくださいということですか。

【5番 山本 文男】

そうです。今読み上げたことを書き取れなかったものですから。

【議長 那須 富重】

議事録とは別ということ、また、ということですか。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

私たちは議会だよりも合わせて早めに文書を作るものですから。早めに頂けるものなら頂きたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その点については、ちゃんとその後の対応として、政策推進室だと思っております。それを出させていただきます。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

この議事録を読んだことで、町の男女共同参画推進条例を調べることとなります。議員の皆さん、興味がある方は男女参画協働推進条例が「1700」に載っています。タブレットでも見られます。

議員になって初めての平成30年3月定例会で、美郷町男女共同参画推進条例が上程されました。同年6月定例会で「町防災会議に女性の委員を登用すべき」との私の質問に、「美郷町男女共同参画推進条例に従って女性を確保していきたい」と町長は答弁しております。そういうこともあって、この条例は私にとって気にかかる条例となりました。

その後、令和2年度から令和6年度にかけて、美郷町男女共同参画計画が策定されました。これは性別にかかわらずあらゆる分野に対等な立場で参画し、活躍できる男女共同参画社会の実現を目指すための計画です。

その基本目標2に、「あらゆる分野で男女共同参画の実現」というものがあります。各課で様々な目標を掲げておられるようです。職員、課長の皆様もしっかりと取り組んでおられると思います。いかがでしょうか。この場ではもう職員の皆さんには聞きませんが。

美郷町男女共同参画推進条例第19条には、「町長は毎年度、男女共同参画計画に基づく施策の推進の状況に関する報告書を作成し、これを公表するもの」とあります。

通告書には「ホームページや広報紙での公表を望む」書いております。そもそもこの報告書は毎年度、作成してきたものなのかお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

この報告書は、国に報告する必要があります。作成をして国に提出をしているということでもあります。その公表は、内閣府男女共同参画局のホームページで全市町村の進捗状況を公表しております。男女共同参画の状況等については、国が示す公表内容の様式に従って作っております。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

美郷町の男女共同参画計画を見れば、この報告書は年度ごとの町の進捗状況、男

女共同参画を調べてそれを報告すると書いてあります。町のその進捗状況とかの報告書はできてないんでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

町独自の報告書についてできてる、できてないというのか分かりませんので、総務課長でいいでしょうか。

【総務課長 甲斐 武彦】

議長。

【議長 那須 富重】

総務課長、甲斐 武彦。

【総務課長 甲斐 武彦】

進捗状況に関する報告書が、国から様式が示されておりまして、全市町村が県を通じて国へ報告するようになっております。

その中で、進捗率、いわゆる女性の委員が何%なっているのかなどそういった数字が上げられて、表示されております。

事細かにいろいろ表示がされております。御覧いただいたら分かりますが、各市町村、同じ様式で国のホームページで公表されているところがございます。

以上です。

【議長 那須 富重】

答弁が終わりました。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

報告書は町民が見るものじゃなくて国に報告するものですか。

【総務課長 甲斐 武彦】

議長。

【議長 那須 富重】

総務課長、甲斐 武彦。

【総務課長 甲斐 武彦】

国に報告するようにはなっており、国は全市町村の報告した内容をそのまま内閣府のホームページで公表しております。本町としましては、それを公表に代えているような状況でございます。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

はい、分かりました。

通告書にあるように、年度ごとの報告書をホームページや広報紙での公表を望みますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員がおっしゃるように、町のホームページあるいは広報紙等に掲載したいと思っております。

見てみると、国には事細かに報告しています。その中からみんなが一番知っておいてほしい部分を取り出して報告したいと、議員おっしゃるように報告しなければならないと思います。

以上です。

【議長 那須 富重】

答弁が終わりました。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

この参画計画は令和2年度から令和6年度までとなっています。来年度以降の計画も予定しておられるのかお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

令和6年度までの計画でしたので、それ以降ということでもあります。令和7年度から5か年計画をつくっていくということでもあります。令和6年度中に男女共同参画社会の計画を策定する必要があります。

今の男女共同参画の会議等については、私の方も承知しておりませんので、総務課長から答弁をさせていただきます。

以上です。

【総務課長 甲斐 武彦】

議長。

【議長 那須 富重】

総務課長、甲斐 武彦。

【総務課長 甲斐 武彦】

今、町長からありましたとおり、美郷町の男女共同参画計画につきましては、令和2年度から令和6年度までの5か年計画でございました。

また、令和7年度から新たにまた5か年計画を策定する予定です。今、準備を進めているところでございまして、年度末に審議会を開催いたしまして決定をしたいと考えております。そのスケジュールで今、進んでおります。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

それと、国に報告した報告書を私たちが見ることはできますでしょうか。

【総務課長 甲斐 武彦】

議長。

【議長 那須 富重】

総務課長、甲斐 武彦。

【総務課長 甲斐 武彦】

報告書につきましては、ホームページでも公表されておりますので、見ることはできます。また紙ベースでということであれば、後から提出したいと思えます。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

次に、同条例20条及び21条には、「男女共同参画審議推進委員会を置く」と書いてあります。現在の委員構成についての説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今の令和6年度までの男女共同参画社会の計画書において、委員は9名です。9名集まって審議会を形成し、その中で策定をしております。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

私は推進委員の名簿、当初の名簿は見たのですが、それから任期は2年となっております。現在の委員について、委員構成について説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

この設置のときの策定委員、審議会で10名以内という話でありました。任期が2年。そしてあと2年ごとにとという話がありますが、そこを再任されたかということとは私も承知しておりませんので、総務課長でお願いします。

【総務課長 甲斐 武彦】

議長。

【議長 那須 富重】

総務課長、甲斐 武彦。

【総務課長 甲斐 武彦】

今、御説明しましたとおり令和2年2月に、現在の計画が制定されており、そのときに2か年の委員の委嘱を行っております。

その後、令和4年1月に任期は切れましたが、それ以降の委員の選任はしておりません。今年度中に令和7年度からの5か年計画を設置する予定でございますので、これに合わせて新たな審議推進委員会の委員を委嘱する予定としております。

以上です

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

現在、委員は不在ということです。この人たちの役目として、「町が実施する男女共同参画の推進に関する執行の実施状況について町長に意見を述べるができる」ということと、「参画計画の推進に影響を及ぼすと認められる施策について、町民からの苦情の申出があった場合、審議する」とあります。

不在のままこの計画が、推進条例そのものが成り立っているのでしょうか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

策定をして、そのままの形で2年で終わるという話で、処理の仕方が問題かなど。

また再任でもいいからあと2年という話で、その中で委員たる資格を持って本当に男女共同、自分たちがつくった策定のとおりやっているかやっていないか評価する。そして話を聞いたときに言ってもらおうという条例です。議員が言うように、しっかりとした形で進める必要があると認識をしたところであります。

以上です。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

令和2年の名簿には区長、会長、婦人会会長や老人高齢者クラブ連合会長の名前が連なっております。当然、こういう人たちは任期が切れたと思います。そして、町長に対して意見を述べる人がいないことも残念な状態であると思います。

そして、本年度が計画の最終年度であります。参画推進が進んできたのか、推進員を含めての総括が必要と考えます。推進委員の方の名簿がまだできていないということは、非常に残念な気がいたします。

今、世の中は差別をなくして多様性を重視し尊重する機運が高まりつつあります。そのような中で、本町でも共同参画推進は極めて優先順位の高い取組だと思えます。そして何よりも、条例は町民との約束だと考えます。推進委員の名前がない中で、そういう不具合はどこから来たんでしょうか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員がおっしゃるように、2年間の策定業務のときには委員はいたと。あとの2年間はいないという話で、審議会をするときを選ぶという話であります。

そうすると空白があり、やはりちゃんとしたものをやっていかなければならないと。先ほど言いましたが、この第20条で苦情などが出てきたとき誰に言えばいいのかという話になります。その委員がないということになると、非常に片手落ちではないかということでもあります。その点は、やはり今後しっかりとしていきたいと思っております。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

先ほど言いましたが、条例は町民との約束だと考えます。この約束を守ってきたのかということについてお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

どこかの町で、条例をつくるときに1冊の本にしたという話です。指切りげんまんという話であります。

これは約束事です。条例は、町民との約束事と。それしてないのではないか、条例違反だというお話であります。そう言われればそのとおりだと。申し訳ないと言わざるを得ないと思います。

以上です。

【議長 那須 富重】

答弁が終わりました。

【5番 山本 文男】

議長。

【議長 那須 富重】

5番、山本 文男議員。

【5番 山本 文男】

施政方針にも、町長はこの共同参画社会づくりの推進を盛り込んでいます。「女性委員の登用に努め、積極的に共同参画社会の形成に取り組んでまいります」と謳っておられます。

最後に、この言葉に恥じないようにしっかりしたかじ取りをお願いして、私の質問を終わりたいと思います。

【議長 那須 富重】

これで、5番、山本 文男議員の質問を終わります。

ここで、10分間の休憩といたします。

11時5分より再開といたします。

(休憩：午前10時10分から10分間)

【議長 那須 富重】

それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。
通告順調に質問を許します。

8番、甲斐 秀徳議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【8番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

鳥獣害議員の甲斐です、よろしくお願ひいたします。

今回は、鳥獣害対策と栗のドローン防除の2件について質問をしたいと思ひます。

私事ですけれども、昨夜、牛が出産を始めまして、深夜に及びましたので睡眠不足という感じですが、思考回路がちょっと落ちておりますので、質問の内容が若干、狂うことがあるかもしれませんが、よろしくお願ひしたいと思ひます。ちなみに、牛は大丈夫でした。

それでは、鳥獣害対策について質問させていただきたいと思ひます。

この問題については幾度となく、また多くの議員が質問を行ってまいりました。多々、改善された面も多くありますが、今も被害が発生している現状であります。

6月に町長はじめ議員と農水相との懇談・質疑も含め、鳥獣害別に質問させていただきたいと思っております。

まず最初に、鳥獣害対策については、町民一人一人が取り組まなければなりません。時には、地域集団で取り組まなければならない場合もあります。

今年の被害は相当なものがあり、フェンス柵内に侵入、また住み着いているイノシシなどによる稲作被害も深刻になっております。

この頃は、フェンスの内側また外側に電柵を設置している方も多かれど獣害防止対策をしております。これにはいろいろな要因があり、個体の増加、それに狩猟者の減少、また個体に対する敵対者がいないということではないかと思ひます。里山がその個体にいい住みかになっていると考えられます。ある人いわく、「美郷町特区を設定し、犬を放し飼いにしたらどうか」と言った方がございました。昔のように放し飼いにすると、獣もいなくなるのではないかという極端な話でございます。極端かどうかは、皆さんの判断にお任せしたいと思ひます。

話は変わりますが、今年のテレビ報道の中で、「関東地区周辺では、人が夜に梨園に忍び込み梨を盗んでいく」と、西郷では、白昼堂々と集団で梨を盗みに来ます。昼間か夜間に来る差はありますが、夜間窃盗は警察に相談いたしますと警察が対応いたします。昼間の窃盗は、警察に相談しても取り合ってくれないため、結果的に役場に相談に参ると思ひます。役場当局が盗難届を受理しているかどうか分かりませんが、犯人は分かっているのに逮捕もできないという現状でございます。

これには複数の頭数が絡んでおり、梨窃盗被害は83万円相当であります。

また、今回の台風10号でも被害に遭い、被害も若干ながら拡大しております。このようなことから農家は落胆の様子であります。

また、猿は移動を繰り返し、その間に家庭菜園に侵入し夏野菜を食べ尽くしてまいります。1集団当たり30から40数頭いますので、果樹園、家庭菜園に侵入すると

その被害は甚だ深刻な問題であります。

ただ追い払いをすることだけしかしない現状を、町長はどのように捉えているか、お伺いしたいと思います。被害対策は別途伺いますので、現状についてお答えください。よろしく願います。

【議長 那須 富重】

傍聴に来ていただいております。お礼を申し上げます。
それでは、町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

昨夜、子牛の出産があったということ、おめでとうございます。繁殖農家は生まれて何ぼのものだと認識をしております。非常に喜ばしいことかなあとっております。

この猿の被害についてです。農作物を中心に毎年数例の報告があっており、出沒した際には有害駆除班や指導員の出動、職員での追い払い対応を行っているところでございます。例年5月頃に前年度の有害鳥獣の被害調査を行っておりますが、猿の被害報告については、あまりありませんでした。

しかしながら、本年度に入って議員の言われるように至るところで被害報告を受けております、2名の梨農家のうち1名は3,000個、約60万円程度の被害、1名は被害個数は把握しておりませんが約20万円ぐらいの被害だと思っております。この猿に対してという話で、みんなでいろいろな形で考えていくしかないと思っております。

何でこうなったのか、どうすればという話になっていくと思います。今後、議員のお力、皆さんの考え方、そして猟友会、いろいろな方々のお知恵を借りながら、対処をしていきたいと思っております。よろしく願いをいたします。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【8番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

今年になってから深刻な問題であります。このことが今後の生産意欲につながるかどうか、問題ではないかと思っております。ここをどうかしないといけないと思っております。

猟友会に駆除してもらうのが一番手っ取り早いのですが、打つ方もなかなかいらっしやらないという状況になってるのかなと思っております。直接、間接的でもいいのですが、今、大体どのくらいいると町は把握しているんでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

もうかなりいるのではないかと、30頭、40頭の群れがどのくらいあるのかということになります。そこまで私は承知しておりませんので、農林振興課長から分かっていたら答弁をさせていただきます。

【農林振興課長 松下 文治】

議長。

【議長 那須 富重】

農林振興課長。

【農林振興課長 松下 文治】

この件については、私たちも状況を把握しておりませんので、今回のアンケート調査をするようにしております。9月の定例の区長会でアンケートを配布しまして、全町民に対してのアンケートを行う予定にしております。

今現在こちらで把握しているのが、出没件数と場所を考慮したときに、大体3つから4つの集団ではないかと考えているところでございます。目撃情報からによると、やはり30頭から40頭ほどの集団という報告を受けております。

また、雄猿のはぐれ猿についても数例の情報が寄せられているところでございます。

以上でございます。

【8番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

今のところ、被害が農作物だけですが、はぐれ猿があちこちに出没していると思います。これが住民に不安を与えるような状況になると、非常に困るなと思っています。

例えば、学校の近辺に出ると学校自体も非常に困るのではないかと思います。その点については、また後から聞きます。

こういう状況の中は、今美郷町内で西郷地区だけ本当に害が出ていると。南郷に

もあんまり猿はいない、北郷にも若干、来るときもあるがそんなに問題にしていな
いようです。やはり西郷の住民にとって、特に梨農家、これから栗が落ち始めます。
そうなると、やはり作物の災害が非常に多くなりますので、今後、猿の被害対策を
どうかしていかなくてはならないということでもあります。

今回、町の補正でいろいろと組んでいただいております。各鳥獣被害対策事業に
45万円、猿対策事業でも100万円近くを補助することになっておりますこれに
ついて、後から説明をお願いしたいと思っております。

猿の被害対策の状況で、梨の生産者の意欲がなくなつては、大変だなと思ってお
ります。今年は梨自体が少ない上、結局、梨の特売所も開けられず、温泉の入り口で
営業したという状況です。

農林省が三本柱でやっております。

鳥獣被害対策の1本目は個体管理、つまり鳥獣の捕獲ということです。猿の捕獲
は、なかなか難しいと思っております。

2つ目は侵入防止対策です。侵入防止柵の設置と追い払いです。これも実施して
おりますが、隙間を見て、ちょっとした隙に被害に遭います。追い払いもなかなか
効かない、一遍、追い払ったら、また戻ってくるという感じです。

3本目は生息環境管理です。緩衝帯の整備と放置果樹園の伐採ということになっ
ております。そういうところもありますが、ないところもあり、いろいろな問題が
あるかと思えます。

この活動を地域ぐるみで徹底できるかが鍵であるとして書いてあります。所詮、農家
自体の管理状況次第ではないかなと思っております。

相手が多数であり、少しの油断で被害に遭います。相手がどこに移動したか、ど
こに向かっているかを知ることによって防御できるとも考えております。猿にGPS発信
機を取り付け、その動向を農家も確認でき、侵入防止対策や追い払いもできるの
ではないかと思えます。

このことから、猿の複合対策の支援事業として、生息調査を実施した上、捕獲、
追い払い、追い上げ、侵入防止、生息環境管理の内から2つの取組を選択し、実施
するための経費補助で、1町村当たり100万円以内の限度額を利用してはどうか
と思っておりますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員おっしゃるように今、3つの対策と言っておられました。来年から本格的に
取り組もうと思っておるところであります。

何が悪いのか悪いのかという部分で、効果を出している市町村に職員を派遣した
また違う意味でこういう対策が効果がありますという話もあるかもしれません。そ
れと併用して議員おっしゃった3つのことをして100万円が限度で、この猿対策
をやっつけよう。

その中で生息調査、GPSをつけてどういう形で動いているのかと、どこに
いるのかなどを把握をしたい。追い払っても追い払っても来るといふことで、どうす

ればいいか、難しい話です。

個体群管理、駆除という言葉がいか分りませんが、個体数を減らしていく必要があります。一番そこに尽きるのではなかろうかなと思っております。

昔は下りてこなかった、なぜ降りてこなかったか、いろいろな要素があると思います。下りてこない環境をつくっていくことも組み合わせながらやっていく必要があると思っております。

今回の9月補正に、準備調査を組ませていただきました。調査を基に、令和7年度にしっかりとした対策を組んで有害鳥獣対策はやっていきたいと思っております。

議員おっしゃったように農家さんのモチベーションが下がらないように、そして人的被害が起こる前に、何とか手を打ちたいと思うところであります。

以上です。

【 8 番 甲斐 秀徳 】

議長。

【 議長 那須 富重 】

8番、甲斐 秀徳議員。

【 8 番 甲斐 秀徳 】

ありがとうございます。

課長から鳥獣害対策事業の45万円と猿対策事業100万円程の説明をお願いしたいと思います。

【 農林振興課長 松下 文治 】

議長。

【 議長 那須 富重 】

農林振興課長。

【 農林振興課長 松下 文治 】

今回9月補正で補正予算計上させていただいております。

まず、捕獲指導員が各地区3名ずつ今いらっしゃいます。西郷にも1名いらっしゃいますが、銃を持っていないということと、ほかの鳥獣害対策の対応に追われて連絡をしてもなかなか対応ができないということです。指導員を1名追加するために、報酬等を計上させていただいております。

また、捕獲に関しては、先ほど言いましたはぐれ猿に対応した移動式のおりを3基、購入予定としております。これについては家庭菜園等に設置して、はぐれ猿を捕獲するという目的で購入を予定としております。

そして、電動ガンを購入する予定としております。これについては、免許は要りませんので誰でも使えます。6丁の内2丁は、人的被害が懸念される西郷義務教育学校に配付したいと考えております。1丁については役場で保管をし、残り3丁は被害に遭ってる方たちに貸出しをしたいと思っています。

また今回、委託料18万円計上させていただいております。今回、梨の被害があった園地は独自で猿の被害対策を行っていました。その対策が適切であるかどうかを専門家に依頼をし判断していただくことと、猿対策に対して有害鳥獣捕獲委員の

方たちにどういう対応がよいかという説明していただくということが目的で、委託料等も組みわせていただいております。

以上でございます。

【8番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

猿対策事業で100万円近く、その中で銃も購入し子供たちも守るということ、しっかり頑張ってもらえればありがたいかなと思っております。

特に、あそこは通り道になっています。一番最初の通り道が西郷発電所から沢渡住宅のところを通過して、花水流のところへ来て、甲斐治好さんの梨園に来て、それから峰の方に上がってくるか、下に下るか。

峰に上がって、今度は寺之迫に行って、お寺から学校に上がるか、そのまま上野原に行くかという道筋と、大体のところは分かっているようですよ。その中である程度防御ができれば、非常にありがたいかなと。

もう何度も前から猿にGPSをつけたらどうかと申し上げています。今後、本格的にやってもらえればありがたいと。

昔は麻醉銃で撃って、眠らせて捕まえるということがありました。町長の地元である狩猟者に聞いたら、足括り罠でもよくかかり、3頭ほど獲りましたと言っていました。どうやってそれを外すのかと聞いたら、毛布をかぶせてそれから押さえつけて外すが、かわいそうだから逃したという話でした。そういうことなら最初から獲るなと思いますけれども。

足括り罠で捕まえば、1回保護していただいて、それにGPSを装着して放すという方法を取ればいいのではないかと思います。今度新しい檻も買えば、何かいい一つの輪ができるのではないかと思います。いかがですか

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員

【8番 甲斐 秀徳】

今、私の地元でということでありましたが、私も、ちょうどその時に電話がありました。かかってほしくない動物がかかっておるということで、行ってみました。捕獲すると、なかなか殺処分が出来ない、もう罠は怖いという話です。どうするかと言ったら、「逃がそうや」と。

それは余談としまして、議員がかなり詳しく猿の行動を把握しているように思っ

ております。捕獲の仕方は分かりませんが、GPSをつけて、それが本当に正しいかどうか検証する意味でも、何頭かにつけて経路を把握することが大切かなと思ってしております。これは絶対というか、ぜひやりたいと思ってしております。
以上です。

【議長 那須 富重】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

事前に知るといふ、捕獲するよりも回避するということ、追い払うことが一番大事ではないかと思えます。向こうも傷つけないし、こちらも傷つかないという方法でやっていけばいいと思えます。

笹陰か小原には、橋がかかっています。ある人曰く、昼間から橋の真ん中を堂々と渡って、小原に行ったり笹陰に行ったりしていると。車が来たらぱっとよけて橋の欄干に座っていると。私も見たことがあります、なかなか頭数が多いです。

結局、栗園に入って、栗の枝を折って落とすので、その被害もやはり大したものになると。もう剪定しなくてもいいぐらい折ってしまうようです。今後そういったことも含めて、しっかりと目を向けてほしいなと思えます。

それから、先ほど私が要望しておりました追い払いグッズが一部補助できないということでありました。銃を買って貸し与えるということですが、個人の場合の補助はできるかどうか、それをお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

栗園の方に聞いたら、弓矢を買ったという話です。

その弓矢は、免許も何も要らないということでした。どのくらい飛ぶのか聞きましたら70メートルくらい飛ぶそうです。それは危ないのではという話です。

町から追い払いの補助という話です。私が思うのは、先ほど言ったように個体数の管理を進めていくと。追い払っても払ってもまた来る、追い払った猿が今度は南郷に行ったり北郷に行ったり、また同じようなことが起るという可能性もゼロではありません。やはり駆除に力を入れていきたいと思っております。

西郷はハウスキンカンがあり、猿が味をしめて入ってしまったら全部被害に遭うという気がします。ちょうど食べやすい大きさですので、そうならないうちに何とか手を打ちたいと。そうなると、やはり個体数を減らしていくことが一番いいのではなからうかと思うところであります。

その他にこうすれば、追い払いで大丈夫であればですが、今まで追い払っても払ってもであります。やはり個体数を減らしていくしかないかなと思うところであり

ます。

以上です。

【 8 番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8 番、甲斐 秀徳議員。

【 8 番 甲斐 秀徳】

今のところは、やはり追い払うしか手はなく、すぐに戻ってくるとことも分かっております。それでもそうせざるを得ないと。いろいろなフェンスをし、フェンスの上に電線を張って、そこを触れればびびっと来るという防ぎ方をしています。

この頃から羊の毛がいいということで、毛を大分あちこちに配ったみましたが、これもやはり一時的なものでした。匂いがなくなれば、もうそれだと思います。シシには散髪屋の毛がいいということで、もう散髪屋は髪の毛が足りないというぐらいに欲しがっているということです。これもある程度は効くのかもしれないないが、あとはもう駄目だということです。いろいろな打つ手、あの手この手でやっています。対策グッズでオオカミの尿がいいということで売っていますが、これもどうかと思います。

農林振興課の方がいろんなグッズを試しに買っていただいて、研究していただくと非常にありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員がおっしゃったように、被害に遭われた方はこれがいいという話を聞いてやっていると。早く言えば実証実験みたいなものですが、そのときに猿が来ないとか、その成果がはっきり分からないということでもあります。

それはそれとして、先程も言いましたように、成果のある市町村に職員を派遣して何がいいのか、その方が確実だろうと思っております。結果が出てることをやってみることが、近道ではなかろうかと思っております。グッズを補助してということを私は考えておりません。効果的な方策といいますか、勉強してきて実践していくという方法でやらせてほしいと思っております。

【 8 番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8 番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

分かりました。ある地域は県外なのですが、高齢者の方々全員に銃を持たせて追い払っているところもあります。これは、これなりの効果があるのではないかと思います。いろいろな勉強をさせて、職員がそれを率先してやっていただければこれにこしたことはないなと思います。

猿との知恵合戦のようなところもありますが、それも踏まえて頑張っていただければ非常にありがたいかなと思います。

それから、ドローンによる追い払いです。通常は、追い払い犬というので犬を訓練いたしまして、犬で追わせるというような形が普通です。今の時期は、犬も猿が来たときに追わせると、30分もするとこの暑さでヘタってしまうようです。夏の狩猟も同じで、犬もなかなか長続きしないと状況でございます。

そこで目をつけたのがドローンであります。これは赤外線をつけているドローンを飛ばして、どこにいるかというのが分かります。それで1回確認しドローンで追い払いをします。大きいドローンだとそれに拡声機をつけてやるということもできます。小さいドローンだとそれはできませんが、プロペラの音が相当大きいので、近くまで行くだけでも相当違うという話が出ております。これをやっていただくと非常にありがたいなと思います。

これに犬の声が出れば一番いいのですが。このドローンは、他の利用もできると思います。例えば、イノシシや鹿の追い払い、またカワウもこれで追い払うことができるので、いろいろな活用ができると思っております。この活用について、導入は考えたことはございませんでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほど言いましたように、先進地に行って、ドローンによる犬の鳴き声を入れて追い払う方法で非常に効果があるということであれば、そういう方法で進みたいと思います。

でも、その追い払った先がどこに行くかということも懸念されます。一番思うことは、先ほど言いましたように個体群の管理に執着したいと思っております。

犬と猿ですので、犬猿の中とってなかなか合わないから猿も逃げていくところかなと思います。それをいろいろなものに応用できる、ドローンを持っておけば活用方法は非常に多様性に富みます。いろいろな形で使えると思っております。

何のためにドローンを買うのかということをはっきりと定義をつけて、そしてそれが派生する、今度はいろいろなことで使うと。最初の目的が達成できるかできないかという部分を緩和しなければならないと思います。それが効率的に、非常に追い払いには有効だと先進地の取組の中で出てくれば、検討する必要があると思っております。

【8番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

単独的に追い払いだけで使うということであれば、ドローンはあまり使い道がないと思います。後から出てくる防除などいろいろなものに使えばドローンの活用性は非常にあるのではないかと思います。

猿ばかりではなく、イノシシや鹿などが田んぼのフェンスの中にいます。追い払いや見つけることにも重要性があるのではないかと思います。ぜひ検討をしていただければいいかなと思います。そのためにも、職員の教育も必要ではないかと思えます。免許も先に取っておいていただければ、ありがたいと思っております。

それから、獣害防止の防止柵についてです。

今、里山に住み着いたイノシシがフェンス柵内に侵入し、稲などの被害が発生しております。新設フェンス柵は割と丈夫で、新しいものにはあまり寄り付きません。亀甲網が設置してあり、下を掘り返すことができないからだと思っております。少し古いフェンスだと柔らかい箇所を掘り返して、そこから侵入、また我々がそれを補強する、侵入、補強という状態が続いている状況でございます。

それから、イノシシも頭がいいもので、一番柔らかい所はどこかと体でぶつかりながら行きます。昔のフェンス柵は、入り口の部分が何もしていないため弱く、突破口としてそこから入っていくという状況でございます。

それを補強するために、中ある支柱を横につけます。内側と外側につけると、今度は曲がらず、非常に効果的です。それも必要ではないかと思えます。

農林省との話合いの中で、侵入防止の追加補強材として亀甲網やパイプなどの資材提供が令和7年までに処置策として出ております。これを取っていただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

下に引くその網は、今必須になっているということです。今までも要望があればしていいですよという話です。考えてみますと、メッシュ柵を設置することが終わりではなく、その後の管理がうまくいってるのかいってないのかを財務省が言い始めたという話です。管理がうまくいってないところは交付金をつけませんという話になっています。要望はするが、あなたたちはちゃんと管理をしているのですかということで、鳥獣交付金の抜本見直しを財務省が言い始めました。

当初は令和6年度ゼロ回答、何もついていなかったということでもあります。なぜかといろいろ話をしましたら、結果的にはその分だけ出てきました。今は、その網をまだつけないといけない所もあります。それを優先してやらなければいけないかなど。もし、今までつけた柵の下に亀甲網を全部つけるとすると2億円ぐらいかかります。今まで付けていない部分が240キロぐらいになります。メートル当たりの計算をしています。そういうことになると、非常にまた財政的に、財務省が全部

出してくれるかと、農水省がそれを取り切るかという話にはならない。そういう時期になっているということでもあります。それより今は申請してる人達をを優先すべきではなかろうかと。後は、それぞれの地域でこの網の設置をした後の管理をしっかりとやってほしいということでもあります。管理ができないならば交付金はやりませんよとなるのではないかと考えております。

農林水産大臣もそれをどんどん減らしていくということには賛成しかねるという話であり、これがどう転ぶか分かりませんが、そういう情勢であります。

先ほど言い忘れましたが、宮崎県が日本猿に対しての要望書を国に出しております。これは、環境省の自然環境局長と農水産省の農村振興局長の2か所に出しております。

町も9月10日付で同じ内容文の要望書を出してくれないかという話があり、日本猿の対策で一緒に要望書を出したところでもあります。

以上です。

【8番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

大体、言わんとしていることは分かりました。先ほど課長から聞きましたけれども、ぜひ要望書を出してこういう現状だとはっきり伝えてほしいと思います。

今後、被害が拡大しないことを祈るものです。それと同時に農家の意欲をなくさないようにするためにも、ぜひ必要ではないかと思えます。

亀甲網ですが、これは全体的ではなく部分的でいいと思います。被害が出ているところの補修をすれば、相当違うんじゃないかと。本来は、横にパイプを一番下のパイプに横のパイプを結びなさいと言われていています。パイプハウスに使ったようなものでもいいのですが、そういう資材がなかなか手に入らないときもあります。それも含めてお願いできたらいいかなと思っております。このことは検討していただければ非常にありがたいかなと思えます。検討材料として取っていただきたいと思えます。猿とイノシシについては言うことはありません。また何かありましたらよろしくお願ひし、2番目に行つてよろしいでしょうか。

【議長 那須 富重】

2問目の発言を許可します。

【8番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

栗に対するドローンの防除についてです。ドローン防除を2年ほど行つておりま

すが、その結果は出ておりますでしょうか。出ておりましたら、どうなっているかお聞かせをお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

実証実験を行っております。そして振興局も行い結果が出ておりますので、その結果について、課長から答弁をさせていただきます。

【農林振興課長 松下 文治】

議長。

【議長 那須 富重】

農林振興課長。

【農林振興課長 松下 文治】

栗のドローン防除につきましては、令和4年と令和5年、今年も行っております。令和4年、令和5年については、日向地区営農振興協議会の果樹部会が九州電力ドローンサービスに委託を行って実施をしております。

令和4年度に、まず実験をする前に水でデモの試験をしております。実際にちゃんと満遍なく防除ができているかということの水と感水紙を使って、それを設置しまして実際に薬剤がかかっているかどうか調査しました。ドローン防除の場合、場所によって、ばらつきがあるということでございました。

令和4年度に、3か所でドローン防除と通常の動噴防除の実証実験を行っております。結果としましては両方ともいい成果、同じような成果でございました。

令和5年度には、4か所で実施しました。そのうち3か所で結果が出ており、中生の栗はドローン防除の方が効果があったと。ただ、早生は通常の防除の方が効果があり、ドローン防除の効果がなかったという結果が出ております。

確かにドローン防除に関しては短時間でできることと労力が要らないというメリットもあります。今の段階においては、ドローン防除は飛行時間が短い、あと天候の影響を受けやすい、各種法規制がかかる、その他、操縦する方の技術がかなり必要だということ、費用が高いというデメリットがあります。

今一番の問題は、登録農薬が少ないという点であります。ドローン防除に対応した登録農薬が、今のところ殺虫剤しかございません。殺菌剤は今のところ開発はされていない状況です。他県でも同じような試験を行っていますが、メーカーに早めにドローン用の殺菌剤の農薬を作ってくださいという要望が出ているようです。

あと一番問題になるのが、ドリフトです。これが一番問題になるということです。

農薬は意図しないところに飛散していくことが、一番問題になっているようでございます。ドローン防除については通常の動噴とは違って、割と細かい霧状のものを吹きつけます。どうしてもドリフトが起こりやすいため、他の作物にも影響があるということです。もしそういう作物を出荷して検査機関で検査したときに、ドロ

ーン防除で使って農薬が検出された場合、非常に問題になってきます。まずはそういった技術の確立をしていかなければ、ドローン防除の効果は出てこないと思っています。

以上でございます。

【8番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8番、甲斐 秀徳議員。

【8番 甲斐 秀徳】

課長の話の話を聞いていると、欠点ばかり言っていたような感じで、これはしようがないと思います。そればかりではなく、今のことを考えると、高齢者ばかりなので高品質の栗を生産するための防除は、大変大切な仕事であると思います。

高齢化が進み、思いのほか大変なことであり、産地化が進む中で避けられない仕事ではないかなと思っています。

平地は問題ないのですが、この地区のほとんどは傾斜地であります。そのため高品質の栗が取れていると思っています。

栗拾いなどは下部に転がってくるので、傾斜地の方がやりやすいです。これを維持して6次産業の一環として先を考えるならば、ドローンの防除もやはり考えるべきではないかと私は思っております。

ただ、昨日も言いましたが、薬剤の問題であります。薬剤が別で1回の飛行が7,800円になっており、大変な負担です。去年のスマート農業推進事業で稲作10アール当たり1,000円の補助を行っており、今後そういうことも考えられると思います。この事業を今後栗生産者につなげていくことは可能かどうか、もしよければ、それについてどう思いますでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ある程度の効果はあるという話です。よくよく考えてみますと、ドローンという機材を考えたことがあるのかという話です。こういうものができた。それで防除をするという発想がどこにあったのか、いろいろな使い方があるということです。今から先、技術的なものは全てクリアできるのではないかという気がしております。

高齢化していく中で、労力を削いでいく中で、ドローン防除は必須になっていくのではないかと思っています。栗や水稻に限らず、いろいろなものがあります。梅や柚子などいろいろなものが美郷町にはあります。その中で、防除といたらドローン防除が一番いいだろうと。そういう対策も、これがいい、あれがいいという話になってくると思います。今度は、それに対する補助という話になったとき、どのくらいの経費がかかるのかしっかり計算して、補助金という方向性に進んでいく

と私は思っております。少しでも労働力の効率化、無理をしないでスマート農業に変えていくことをやっていきたいと思っております。

以上です。

【 8 番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 那須 富重】

8 番、甲斐 秀徳議員。

【 8 番 甲斐 秀徳】

積極的な御意見をありがとうございます。長い目を見たときに、そういったことも多々必要じゃないかなと思っております。

私たちが心配するのは、高齢者ばかりであればできない、これもできないということよりも、逆に 1 つ先端をいって、少しでも仕事を軽くすることも手ではないかと思えます。

例えば、今の櫛も高齢者の方が生産しており、櫛でいい結果が出せると思えます。そういうことを含めて、今後若い人を積極的に育成していただければ非常にありがたいかなと思っております。何せ農業が下火になっております。今後そういった積極的な取組をお願いして、私の質問を終えたいと思えます。

以上です。

【議長 那須 富重】

これで、8 番、甲斐 秀徳議員の質問を終わります。

ここで、休憩といたします。

再開を 13 時からといたします。

(休憩：午前 11 時 56 分から午後 13 時 00 分)

【議長 那須 富重】

それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開いたします。

本日は傍聴の方もお見えでございます。お礼を申し上げます。児玉議員が病気治療のため、午後からの欠席の届出がありましたので、受理いたしました。

それでは、9番、川村 義幸議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【9番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、川村 義幸議員。

【9番 川村 義幸】

それでは、通告書に基づきまして一つだけ質問させていただきます。

美郷町観光協会の必要性についてをお伺いいたします。

現在、美郷町には、令和6年度当初予算で1,381万8,000円の補助金を受けて活動している（一社）美郷町観光協会が存在しているが、活動している事実が何も見えていないような気がしております。このような観光協会は本当に町にとって必要なのか、町長のお考えをお伺いいたします。

【議長 那須 富重】

それでは、町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

非常にシビアな質問であります。御承知のとおり、かつて観光協会は地区ごとに役場支所または商工会に事務局が置かれ任意団体として存在しておりました。

当時、東九州道の開通や北方延岡道路の延伸を背景に、本町としても観光振興や経済活性化を図る取組や圏域自治体と連携した広域観光推進の必要性から、法人として独立させ、多角的な事業を展開するのが望ましいという判断の下に、平成30年度に一般社団法人美郷町観光協会としてスタートしたものであります。

観光協会の活動につきましては、令和元年から令和3年にわたるコロナ禍の影響を受けながらも、マスコミ向けの広報活動、町外での販促、ツーリズム等、直接、町民の目に触れにくいかもしれませんが、事業実績から一定の取組は見られますので、その点につきましては御理解いただきたいと思います。

一方で、主催イベント件数が少なく、主体的な活動を通じて町の経済活性化に寄与しているのかという点に関しては、いまだ不十分と考えており、議員のおっしゃることは理解できるところであります。

改めましてこれまでの観光協会の運営を確認したところ、改善する点が複数あり、2つの大きな根本的課題から発生してきたものと考えています。

1つ目は組織体制、2つ目は町内の各種団体との連携が不十分と、この2つの大きな要因によって観光協会が見えにくい、必要かどうかという考えに至ったのではなかろうかと思っております。
以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【9番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、川村 義幸議員。

【9番 川村 義幸】

本当に町民の目には見えてない。町長、言われますように、販促や何かに動いている部分は分かるのですが、販促だけという感じがします。

コロナ禍の中でいろいろ頑張っていたという話もありますが、観光協会としては町にもう少し目に見える、例えば、いろいろなイベントがあります。イベントにしても、独自で行っているイベントはほとんどありません。ほとんど町に便乗している、各団体、実行委員会、商工会、全ての活動に便乗しているだけのような気がします。そのことを町長はどう考えているのか、それは活動しての内に入るのかお聞きしたいです。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おっしゃるとおり行政の観光行政と商工会、他の団体と重複した部分があり、自主的、主体的なイベントをしてないと、おっしゃるとおりと思っております。企画情報課が観光を持っており、ある程度大きくクローズアップされています。

先ほど言いました組織体制で、マンパワー不足から発生する運営上の問題もあります。スタッフは正職員・パート・地域おこし協力隊で構成されておりますが、終日勤務できる人材の確保が難しく、直売所の営業日縮小や複数業務の兼業により本来業務へ傾注できないなどの影響が出ていたようであります。そういった原因からはっきりしないと思っております。

今回、観光業務にしっかり携わる職員を募集し、自主的に運営できる観光協会に再編していくという考え方であります。

観光協会の総会で資料を見ましたが、2024年から2026年を新しく創成期にしたいということであります。2027年から2029年を導入期で、いろいろなことを考えてやっていきたいという話です。それから3年間を成長期、それから先を安定拡大期、4つに分けて今後、観光協会を立て直していく、しっかりとした

ものにしていくということです。

そして、正職員を募集して入れております。もともと観光業務に携わった職員であり、本町の観光協会の発展のために尽力していただけると私は期待しているところでもあります。もう少し時間をいただけないかなと。

要るか要らないかという話をされるとなかなか難しいのですが、やはり必要であろうと思っております。県内の観光協会が一番しっかりしたところは高千穂町で、観光客も多いと思っております。東郷の道の駅ですが、かなりの人が来ているようです。東郷までは来るのですが、それから先に来てないようであります。せっかく東郷まで来た人を、車で15分くらいの美郷まで誘客していくかということが今後の課題ではなかろうかと思うところでもあります。

以上です。

【9番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、川村 義幸議員。

【9番 川村 義幸】

ありがとうございます。まだこれからいろいろ質問しようということのを先に答えられて、どうしようかなと迷っておりますけども。

観光協会の「いっつもや」は、先々月に所管事務調査で聞き取りをしました。その時に指摘されたのが、店の中が暗い、もう営業して欲しいなどいろいろな意見が出ました。

ところが所管事務調査から全然変わっていません。店の中も暗いまま、昨日、一昨日に南郷で話を聞きましたら、週に2日ぐらい開くかなと感じです。あの時にいろいろ話をしたのに、一番手短なこともまだ改善されてない、そんな状態で本当に大丈夫なのかな。

観光協会には、町長が言われました地域協力隊が1人おります。年間276万円ほど給料を払っています。この人の動きが本当に見えてこない気がします。

それを町長はどういうふうにお考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

(一社)観光協会には、会長がおります。町として、観光協会は独立した組織としてお願いしております。その中で、町の関わり方という部分が非常に重要になっていくのかなと思うところでもあります。あまりこちらからああだ、こうだという話になると、昔、町が持っていた観光協会とあまり変わらないという話になってきます。そんなに口を挟まないで、自分たちのやり方によってという話であります。議員おっしゃるように動きが見えないということであれば、再度それをチェックしな

がら、令和6年度しっかりやっていただければ何とかなるのかなと思っております。議会からそういった懸念があることもしっかりと伝えていきたいと思っております。

美郷町の場合、観光協会自体が大きな母体ではありません。みんなで育てていく、助け合っていく、観光協会がする、役場がするという感覚が非常に強いのではなかろうかと思っております。先ほどのワイヤーメッシュではありませんが、柵を設置することが目的ではなくて、管理をしていかに侵入を防ぐかということが大切であり、それと似たような感じがいたします。

町としましては、今後独自性を持たせながら観光協会にお願いすべきことはお願いする必要があると思っております。見えない部分が見えてくるような観光協会にしていきたいと思うところであります。

以上です。

【9番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、川村 義幸議員。

【9番 川村 義幸】

本当に見えるような観光協会にしてほしいです。今、独自性を持たせてなかなか動けないのかな、動いてないのかなというふうに感じております。

本来ならば町の三大祭りや商工会等が行っている地蔵夏祭り、南郷のイルミネーション事業に関しても、本来なら町外からお客を誘致する、せめてそのぐらいの事業をしてほしいと。昔、小松さんがいた頃、少しやりかけていたと思いますが、そういうことも全然見えてこないです。

他市町村の観光協会を見ると、やはり町外、村外からの誘客にすごく力を入れているような気がします。それがまず全然足りていないと思っております。

もう一つ懸念されるのが、我々も会員で、私は法人で入っております。観光協会の会員になりますと会費を納めます。その会費の約半額ぐらいが商品券で返ってきます。これはちょっとおかしいのではないかと。せっかく集めた会費を会員の皆さんにお返しする余裕があるなら、町の1,300万円の補助金をもっと減らしても運営できるのではないかと私は感じます。町長、そのあたりどうなんでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員のおっしゃるとおりだと思います。そういう還元方法、そんなに余裕があるのかと。そしてまた、会員を呼び込んでいるのかと、多くなっているのかという話で考えてみますと、そうではないと思います。余裕があって町民に回しているという話なら分かりますが、町から1,300万円相当の補助金を出していることに鑑みれば、それは少しおかしいということでもあります。

少し忘れましたが、それはやめるという話を聞いておりました。その後どうなっているか分かりませんが、もしそれを続けるようであれば、おかしいのではというお話をしたいと思っております。

以上です。

【9番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、川村 義幸議員。

【9番 川村 義幸】

本当におかしい話です。運営ができないから補助金を出していると思います。運営を出してもらって、それで運営する上に会員から年会費を取って、その半分はお返ししますと。それで会員を増やそうとしているのか、何を意図にそれをやっているのか分かりません。

町長の考えは、観光協会として残していくべきなのかなと感じて取れました。

私の提案としては、観光協会よりはむしろ企画情報課に専用の職員を2人ぐらい増員して、それで運営していく。そうすれば経費として、1,380万円プラス地域おこし協力隊の分を含めると1,650万円ほどかかっております。仮に企画情報課に中堅クラスの職員を2人ぐらい増やしたとしても、私の概算ですが、2人で1,200万円ぐらいで済むのではないかと思います。そうした場合に400万円、450万円ぐらい予算として減額できるのではないかと思います。

町長、その辺の考えはどうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

職員が観光協会の職員を兼ねて、事務分掌の中を決めたほうがいいのではという話であります。

結果的に最初の立ち上げの段階は、企画情報課が観光行政の範疇でやっていたという経緯があります。その時の職員は、いろいろな兼務をしており渉外や販促活動が取れずに実らなかったという話があります。

どちらがいいかということで考えていくと、今のような形がいいと思っております。その中で職員の問題ですが、その一人一人の職員が観光協会をどう考えているかということだと思います。

先ほど言いましたように、3年ごとのスパンの中で黎明期でもありませんが、観光協会はずっと続いてきております。改めてという考え方で、前半は今までやってきたことを精査し、令和6年度の後半に観光協会がどのような動き方をするか見てみたいと思っております。

以上です。

【9番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、川村 義幸議員。

【9番 川村 義幸】

分かりました。そういうことであれば、やはり職員は少し難しいという考えかなと思っております。

今、町長が言われたように今後しっかりと監督というかチェックしながら、本当に必要かどうかを見極めていって、どうしてもという場合は考えなちといけないのかなと。これは1,300万円かかっております。正直言って、その上にプラス地域協力隊が活動した場合には活動費用などがかかるような話も聞いております。

そういうお金を使っているのですから、町にメリットのある、目に見えた活動をする観光協会を育ててほしいなど。育ててというのはおかしいかもしれませんが。他市町村の中で、特に椎葉村観光協会の会長が村外からの誘致活動など一生懸命やっており、よくテレビにも出ております。そうやって椎葉の名前も売れております。美郷町の名前を売ってくれるような観光協会、美郷町に経済をもたらしてくれるような観光協会を目指してほしいです。そのことを含めて今後、町長として観光協会にもう少しきつく言っていただけるかどうか、お伺いしたいです。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

観光協会の基本理念が、書いてあります。「効果的な選択と集中を信条に国内外を問わず、本町観光に有効でかつ効果的な観光関連機関や観光関連事業者と緊密に意見交換等を行い、協会に求められる事案対策等について認識の共有化と相互協力により連携強化を図り、協会の事業展開につなげる」という話であります。

これを見ると、そんなに事業実施は変わっていないかなと。観光協会の組織体制で、総会に1回しか出ておりませんが、私の役割は観光協会の顧問です。

観光協会に理事が9人か10人いると思います。観光協会を動かす理事がどういう形で、この観光協会に参加しているのかという話も必要かなと思っております。

一括りでこれではという話になる、そして今議員が言うように活動が見えないということであれば、理事達にも集まっていただいて。本当に観光協会の理事になってること自体も分からない理事もいるのではというような気がします。その部分も考えてしっかりとした体制になるようにやっていきたいと。

正直に申せば、私もあるとき企画情報課長に、観光協会は要るかという話を昔にした記憶があります。

本当に要るか要らないか、そこまで真剣に考えではなく、漠然と企画情報課が持つ観光行政と観光協会がする仕事、何か分からない、はっきり見えないと。観光協会の役割はという話で聞かれますが、そういう部分を見比べていくと、それぞれ立

場、組織が違うので、することは全然違うという認識であります。それがしっかりされていないということだと思っておりました。そして、やはり人的問題もあると思っておられます。今後、令和6年度、令和7年度を見て成果が出ていないと議員さん、また町民の方々からも言われることかなと思っておられます。しっかりと見て対処していきたいと思うところです。

【9番 川村 義幸】

議長。

【議長 那須 富重】

9番、川村 義幸議員。

【9番 川村 義幸】

分かりました。ぜひとも指導、そういう観光協会をつくってほしいと思います。

御田祭実行委員会の反省の時に、副町長にもお願いしておりました。御田祭でも見えていない、観光協会員が何にも手を出してきてない。本来なら祭りでは観光協会が先頭立って動いていただくのが本当だと思います。受付の場所で、役場職員が受け付けるのではなく、観光協会がやるべき仕事ではないかと思っておりました。そういう点も見えましたので、本当に観光協会はどうなんだろうという心配でした。

今後、今町長が言われたように、あともう少し時間を与えて、そして観光協会の行き先を見詰めながら行きたいと思います。そして令和6年、7年を見て、どうしても変わらないときにはまた指摘させていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

観光協会の理事、会長をはじめ皆さんにとっては嫌な質問だったと思います。これで私が1つ犠牲になって意見を述べれば済むのかなと思っておりましたので、述べさせていただきます。どうもありがとうございました。今後ともよろしくお願ひしておきます。

以上で、私の質問を終わります。

【議長 那須 富重】

これで、9番、川村 義幸議員の質問を終わります。

ここで、5分間の休憩といたします。

再開を13時30分とします。

(休憩：午後1時25分から分間)

【議長 那須 富重】

それでは、休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

6番、中嶋 奈良雄議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

通告順に沿って質問させていただきます。

農業担い手対策等育成について、質問したいと思います。

美郷町の高齢化率は高く、今後さらに高齢化が進むにつれ、就農、生産中止をしていく農家が増えてきています。また、就農している方でも後継者がいないため離農、廃業を考えている方がいる状態です。

美郷町内には大きな企業等もないため、こういった第一次産業で所得を得ている人が多く、町を支える大事な産業の一つであると考えます。

町長も令和6年施政方針において、農林業の振興は最重要課題であり、重点的に取り組み、特に担い手対策と育成対策の充実を図るとの方針に触れております。

このままでは、離農・廃業をされる方が増えしまうことが考えられますが、どのような対策を考えておられるか伺います。

【議長 那須 富重】

それでは、町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

農業の担い手と育成対策ということであります。

美郷町の場合は第一次産業の町で、農業に限らず林業もいつも言われるのがこの担い手不足という話であります。

どんどんどんどん高齢化していった担い手が少ない、その中で新規就農などやっております。現在、農業に対する様々な支援策を講じておりますが、その中に他の市町村にはない町独自の支援策もしております。

支援の目的は、農家の所得向上と農地の保全・遊休地の解消、担い手や後継者の確保・育成等様々でございます。これらの支援は離農や廃業対策にもつながるのではなかろうかと思っております。

人口の増加が期待できない中で、高齢化、後継者不足は着実に進んでいます。

町としましては、現状を維持していくということも担い手・後継者対策の一環ではなかろうかと認識をしております。現在の支援策を継続して実施してい

きたいと思っております。

現在、経営の不安定な就農初期段階の就農者への国の補助事業に加えて、町単独事業での給付金事業を実施しているところでもあります。担い手の確保とともに町内への移住促進にも十分貢献しているため、この事業は進めていきたいと思っております。

今回の定例会におきまして、新規の県単事業であります山間地域農業持続化モデル構築事業の予算をお願いしております。本事業は移住者やUターン者等の方々を対象としており、今回2名の方の支援を計画したところでもあります。なかなか難しい問題ではありますが、農業・林業が尻すぼみしないように、皆様とともにいろいろな支援策を考え支援していきたいと思うところでもあります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

担い手対策は本当に難しい問題だと思います。別の用紙を皆様にお配りしましたが、中山間における北郷地区における集落協定の年齢構成について調べたものです。

これは令和2年度に提出された協定書により記載したもので279人です。令和6年度ですので、これ以上に年齢が上がっていると思います。亡くなった方もいます。279人の内54歳までが若いような感じがしますが、これが10%です。それから80歳までが90%ぐらいの年齢になってます。

これを見るとに分かりますが、農業就農者が極端にいない状況です。年齢とともに体力がなくなってしまう、維持していけない状況が今の現状です。

米作りにおいても、やめる方が今から先どんどん増えてくると。稲作をやめるということは、要するに用水路のが管理できなくなる為やめていく人も出ているという関連もあります。

以前に、農業法人のことを一般質問で言ったことがあります。なかなか難しいという答弁でありました。町でできないならば、会社や他のところが立ち上げるならば、町として支援ができるのか、町長に伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本当にどんどん農業従事者が減ってきているという話であります。2006年ぐ

らいに新規就農が8万人ぐらいたという話ですが、今回、その半分くらいになっており、農業に従事する人が少なくなっています。農業に従事する人は、やはり会社を辞めてリタイアして就農に入る人が多かったという話であります。定年退職して何するかといったら、農業を始めますということで入りやすかったということがあり、ある程度支えてきたということでもあります。

これから先、減っていく予想をされているのは、定年制の延長などが要因となって、辞めなくても会社が再雇用、延長してくれるので、そこに残って仕事をした方がいいという考え方になりどんどんどんどん減ってくる。魅力ある農業であればまだまだ増えるのですが、難しいので増えないということになります。

議員がおっしゃるように、今から先は会社組織が町に入ってくるのかどうかというのもまた問題だと思っております。

耕地はあっても効率性がない、北海道のように見渡す限り畑であれば会社が入って法人化してやれるという可能性はあります。今から先そういうことが出てくるような条件、整備をしていくべきかどうか狭間になっていると思っております。

言われるように、それが終わってしまうと荒れ果てた遊休農地が増え、いろいろな弊害が起こってくることを考えれば、そういう企業に来ていただくように、それも一つの企業誘致だろうと思っております、やっていきたいと思うところです。

その時に補助をどうするかという話になった場合、皆さんと協議したいと思っております。企業誘致という立場からすれば、ある程度の税金の減免、今の制度設計で対応できるかなと思います。今度はそれに対して、農業者にいろいろな補助していますが、それもできるかどうか考えていきたいと思っております。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

私は以前、農業法人のことが気になり、個人で言っていかが分かりませんが、日之影町の役場行って課長や担当者の方に聞いてみました。

私が、どのような方法でしてるんですかと聞いたところ、職員の方は地元の方ではなく、職安に募集をしました。だから農業と全く関係のない人が来て、農業法人、要するに種をまいて苗を育てて田植をして刈り取ってドローンで予防して、もみすりをして、もみをすったもみ殻は肥料にして売ってますと。そして、日之影は栗の産地でありますので、その応援もしてます。ウコンも作って、法人でやっております、いろいろな方法でやっているようです。

これは町の資金でやっていると思いますが、農業法人の事務局長がいませんでしたので、またぜひ来てくださいということでした。それから私は行っていませんが、また行って聞き取るべきだったと今になって思っています。

町ができないならば、建設業でも山関係の仕事、できたら町内の方がするのが一番ですけども。そのときに中山間の交付金支払事業がありますので、それを利用して法人を立ち上げる方と契約をしていく方法もあるかなと。そうすれば、畦の草刈りなどいろいろな面で対応してくれると聞いてます。1反いくらなど。

私も中山間の小黒木の役をもらっております。1反いくら、1日いくらでやります。そういうことを法人化すれば、その人たちに頼んでやってもらうこともできます。今から先はそういう対策をしないと、農業をやっていく人がますます少なくなってしまうのではないかと。法人化すれば会社が米を高くで売って、売り上げて採算性を上げればやっていけないのではないかと私は思いますが、そのことに対しての町長の考えを伺いたいと思います。

【町長 田中 秀俊】
議長。

【議長 那須 富重】
町長。

【町長 田中 秀俊】

直接支払交付金の中で集落営農を決めて、それぞれの地域でその分配の仕方もそれぞれ違います。オーソドックスに言えば、受益者半分、組織半分という形になってるのかなと。例えば、年間400万円の直接支払交付金があった場合、200万円がその組織、あと200万円が個人に戻るという話にしたときに、200万円と400万円、倍違います。その組織が200万円までもらっていいということにすれば、いろいろなことができる。個人に回すと、農業関係にそのお金が行っているのかという話になると少し疑問かなと思います。

その中山間の直接支払交付金を集落協定の中でこうしますという話にしたときに、全額そこに組織が持って、草刈りなどの賃金を支払っていく使い方が本当かなと。管理のために交付金が下りているという話やはり分かっていたと思います。軽微なことは役場に言えば全てそれでいいという話ではなく、交付金は何のために出ているのかという話をすれば、農地保全などに使ってくださいという話であります。もう少しそこを煮詰めて生産者、農家の方々、協定の加入者に分かっていたければなと思っております。

美郷町には、協定や集落営農の数がかなりあり、機能している所としていない所があるも事実です。南郷に行くと1人または2人の若者が、全部受け持ってもいいという勢いがあります。担い手は少ないが、そこを全部守るということになれば何ら問題ないと思います。その中で、法人など立ち上げに必要なお金が出てくるのであれば、皆さんと協議して少しでも立ち上げの負担がかからないように考えたいと思っております。

異業種参入という話の中で、建設業等々が今は災害復旧で動けない状態であります。今までの全ての災害復旧の工事が終わったときに、農業という部分に参入していただいて、いろいろやっていただくことになれば、ある程度農家の負担が減ってくるのではと思っております。

そこそこではなく美郷町総動員といいますか、そういう方法でやっていく必要があると思っております。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

私になぜそういうことを言うかということ、会社の人はいろいろな体験をしてきています。特に建設業の方は重機も持っている、機械の資格も持っており、いざ何かあった時に用水路の補修もでき、即戦力になる。コンバインに関して、重機に乗っているの、すぐ対応ができる。これは地元の建設業とか林業関係者のことを言っているのですが、そういう方がやってくれるなら一番いいという話をしているのです。用水路もどこにあるのか地域の人も知っている、田がどこにあるかも知っています。もしそういう会社があれば、町として呼びかけをしてみる必要があるのではと思います。そういうことを町長は考えていないか、お伺いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

大きな災害でどうにもならないという話になれば、町が形災害復旧をやっています。先ほど言ったように交付金で、例えば、側溝の砂利上げや谷の取水口などいっぱいたまってきたという話であれば、重機を借り上げて重機を使う人達にお願いしてあげると。私の地区では、そのお金を農用地管理組合から出していると。台風でワイヤーメッシュが壊れたら、それを元に戻さないとい時には、全部集まって、重機を持ってきて上げると。できることはやり、できないことは頼むしかないという話であります。そういう方法でつなげるところまでつないでいこうということあります。今後どうするか、南郷のやる気のある若者がどう考えているのかと、どうしてそうなったのかを参考にしながら。例えば、そういう人達が1つの区をしていくことができれば、これが一番理想かなと。

集落区、協定数40ぐらいあります。そこに全部波及していったら、そんなに心配することではないと。一人一人の農家さんが生き残るといのか、言葉はちょっと難しいのですが、ずっと従事しなければならないのかという話になると、それは限界があると思います。ある程度世代交代は起こります。その世代交代が起こったときに担い手がいないよりか、何人かでもいいから水稲でも作っている組織や状態であることが大切かな思っております。そのためには、町がいろいろな助成していく必要があると。

ただ高く売れる物を作ると、同じ米でも3等米よりか1等米がいいわけですが。今度は技術といのか、法人なら法人の収益に関わってくると。これは行政がどうのこ

うのではないと思うところです

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

地域に後継者が少ない、若い人がいないのは現実であります。

その中で、私は農業している若い人が地域の人の米を何町も作っており、もうこれ以上無理だと、どうしたらいいかと相談を受けます。新規農業者の方もやはり同じような考えで、IターンとかUターン、協力隊は年間300万円以上のお金が出ており、私達はそういう支援がないから、その3分の1でも支援があると助かる、そういう支援があったらみんなに呼びかけもできるという声を聞きました。

そのことについて、町長はどう考えておられるか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろな補助で米も1等米を8,000円にという話で農協買取り価格の差額分をという話であります。全ての作物に対してそういう話になると財政的にどうか、美郷町自体が財源が裕福かという話ではありません。昨日、監査委員の報告があり、うちの財政力指数の話ですれば、そこまで余裕ではないという話であります。

そして経常資本収支比率も高いということで、100にした時にいくらか、差引きで残りが自由にできるというだけの話であります。そこまで弾力的な財政向上にはなっていない。早く言えば、危ないということではないのですが、そういったところまで来てるということでもあります。それは本当にしたいのですが、なかなか難しいという部分があります。

その中において、やはり農業振興や畜産振興などに対して1億1,000万円ぐらいは出しているのではないかと考えております。今後もそういう自助努力では及ばないところの補助を今後もやっていく必要があると思っております。

以上です。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

確かにいろいろな面で支援しているのは、確認しております。椎茸、米それに備長炭や畜産、いろいろ様々支援をしているのは十分分かっております。担い手対策に対して、要するに後継者に対して支援しているのは分かります。もう少し支援があったら、担い手や後継者対策にいいのではないかと思います。今の美郷町地域の農業、林業を若い人達が一生懸命守っています。そのことをもう少し考えて、何らかの対策をお願いしたいと思います。

2番目の質問に移っていいですか。

【議長 那須 富重】

2問目の発言を許可します。

【6番 中嶋 奈良雄】

現在、物価高に伴い町民生活に影響が出ていると思われれます。また、各産業においても厳しい経営を強いられています。これは農林業においても同様であり、燃料、肥料、飼料、農薬や機械、資材等が値上がりしており、経営がますます厳しい状態となり離農を推し進める一つの要因となっております。

現在の物価高に対する支援策はどのように考えておられるか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本当にこれは大変だなと思っております。

本人たちが自助努力にかかわらず、いろいろな外的要因といいますか、情勢の中で値上がりをしている部分に対しては、今まで同様に補助をしていきたいと思っております。

いろいろな肥料や機械類は分かっておりますが、農産物はどのくらい上がっているのかという話になるけど、早く言えば価格が上がっているのかという話になると、資材や飼料などの上がり方に比べて、低いということになっております。そこがアンバランスであります。そういう追いつかない部分、農業者に責がない部分についてはちゃんと補助をしてまいりたいと思っております。

以上です

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

美郷町は米に対しては補助をいただいて誠にありがとうございます。他の市町村に聞いてみると、そういった補助はないと言っております。本当にこれはよい政策だと私は思っている次第です。

機械を更新する場合に、1回更新したら7年間は更新できないということがあります。これは前回、早川議員が質問したました。私も靱摺りをしてますが、乾燥機を1回購入したら7年間他の機械は購入できないと。乾燥機は購入したが、平成18年の靱摺り機を使っており、今年は使えるかなという不安を持っていますが、できるだけ負担をかけないように靱摺りをしたいと思っております。

そうした場合に、やはり更新ができないという不安があります。一生懸命やっていますが、機械に頼らざるを得ないところがあります。高齢化していますので、機械が痛んだらどうしようもないと。いろいろな都合があって、朝早くからして、早く終わらせないと受入れもできないなど事情があります。機械を更新する場合には7年ではなく、もう少し短くすることはできないかお伺いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

自分が農業振興課にいる時に、椎茸乾燥機など機械が入っているかどうか検査に行きます。椎茸乾燥機が5台もあります。そして、何台使えますかと聞いたら、3台使えらと。そしてあと2台を3分の1の補助の補助事業で入れてという中で。

機械には耐用年数がありますので、致し方ない部分もあります。結局、機械の使い方というか、使いつ放しではなく終わった後の手入れなどメンテナンスをしてほしいなと思っております。

栽培するものによって、道具が違いますので、いろいろな話になります。一番出てきたのはトラクターの更新で、畜産をする人達はトラクターを一番使います。

最初は10年でしたが、それを7年にしてきたつもりであります。機械化で必要なのは分かるのですが、その家に行った時に、それをずっとはどうかと思うときがありました。

確かに3分の1は本人が出しているのですが、その人の所有なのですが、もう少し当たり障りというか、のさりというか、車でも何でもすぐ悪くなる物もあれば、それがずっと長続きするのもあり、致し方がないかなと思っております。全てがそうやっていけるかという話になると、多分、町の財政がもたないという気がします。そこはしっかりと考えながらやる必要があると思っております。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

確かに町長がおっしゃるのは分かりますが、もう限度が来ている機械もあると思います。そういう物はやはり見てほしいなという気持ちもあります。どうしても必要最小限のものが、要するに今から米時期であります。火を使うなどいろいろな条件が伴ってきます。点検もしますけども。危険が伴う機械には点検もしますが、申請があったら何か対策をしてほしいなと思います。

機械はメンテナンスによって長持ちする機械としない機械、また、使用する人によっても違う、田によっても違います。もう限度が来ている機械に対しては、できるだけ早めの対策をお願いしたいと思います。

自助・共助・公助と言いますが、自助で一生懸命やっている方、また共同で一生懸命やっている方、それでもどうしても対応ができない場合には行政に頼らなくてはどうしてもできない場合があります。そういう場合においては、早めの対策をお願いしたいと思います。

3問目に移ってよろしいでしょうか。

【議長 那須 富重】

3問目の発言を許します。

【6番 中嶋 奈良雄】

現在、全国的に賃上げが進んでおり給料水準も上がっております。農家所得については物価高騰もあり、値上がるどころか下がってしまっているのではないかと懸念しております。新規就農者、後継者を増やすためには、安定した収入と所得が必要不可欠と思われませんが、この対策についてどのようなことを考えておられるか、お聞きしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

所得収入になりますと、行政がという話ではないのかなと。

そういう及ばない部分には補助をします。例えば牛を考えた時に、Aという人が80万円を出す。Bという人が40万円を出すとしたら、40万円下がるからどうか補填してくれということになると、それは正しい理論にはならないと。

ただ1つだけ思っていることというか、今後、期待していることが、食料・農業・農村基本計画が改正されて、今後の話になりますが、適正な価格が今度議論されていく話の中で、米を作るのにどれだけのコストがかかるのか積み上げて、やはり9,000円もらわないと合わないという話になれば、9,000円で売れるようにできないかと国が考える。今後、農業者や流通者、消費者を入れて会合が行われるであろうと思っております。今まではそういったコストは全然考えられず、ただ流通

に乗せて幾らという話であります。

例えば、車を売る時にこれだけの経費がかかって、これだけの利益を上げないといけないから、これで売りますとってそれが売値になります。そういうことを考えたら、その基本計画の中で今後コストを見て、米なら米、最低これだけで売らしようとか、それぞれの作物がどれだけ出てくるのか分かりませんが、私はそこに期待をしたいと思っております。

今までとは違った収入の安定、所得の安定が出てくるのではないかと考えているところです。

以上です

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

現在は米が足りなくなっていて、5キロ3,000円で店頭で売られているようです。それも1袋限定など、そんな感じで売られているところもあります。30キロにしたら1万5,000円です。農業もそういう時代に突入してきたなと私は思っています。自分の米は、自分で価格をつけて売る、そういう時代ではないと農業をやっていく人はいなくなると。自分の米は自分で値段をつけると。今までは農協に供出して1等米、2等米などつけてもらっていました。今からの農業は、金にならないと後継者もいない。

例えば、法人組織をつくった人が米を作って自分で売って、収入を上げて地域に貢献していくような法人組織も欲しいし、また、農業をする人も自分の米に自信を持って売っていくと。今年度はもう米が足りない状況も出ています。機械や肥料、農薬や苗も上がってます。価格を1万円しても、なかなか採算に合わない状態です。そのあたりを考えて、町長が言ったように国や県が対策していくということでもありますので、それを期待して私たちも頑張っていきたいと思えます。

米は1万5,000円くらいで、それでトントンだと私は思っています。価格を農協などいろいろな人に頼んで、上げていく必要があると思えます。

もう一つは、新規就農者に対してもう少し支援をしてほしいです。協力隊は国の金がきていますが、新規の人からそういった対策はできないかという言葉ももらいましたので、町長にお伺いしたいと思えます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

国・県の新規就農者に該当しないのは、町単で救っていることは御案内のとおりであります。それも同じ条件で月額12万5,000円を出しています。それを最

低3年間で、それが終わったら就農してくださいということでやっております。

よく分かりませんが、この12万5,000円が多いのか少ないのかという話になるとちょっと難しいかなと思っております。確かに多いにこしたことはないのですが、行政から見ると、農政、林政だけではなくて福祉行政などいろいろな立場があります。そこにつき込まれる金はそんなに多くはないと思っております。どこに重点的に置くかという話になり、出ていくお金は決まったものは出さなければなりませんので、なかなか難しいと。

この食料ですが、今3つの危機があるという話をよくします。グローバル的に見れば、気候と戦争と食料という3つかなと。

この食料を食料安全保障ということで、日本の食料自給率が非常に低いと。農政の憲法と言われるこの基本法に書くのですが、それになったことはないという話です。今後この戦争と気候という部分で、もし輸入する国にいろいろなことが起これば輸入ができないと。そうしたら日本国民はどうするのかという話になると、飢えると。そしたら飢える前にどうするかと。しっかりとした食料の自給率をつくるために努力をする必要があると思います。それについて、町はどう補助していくのか、国はどうするのかと。その動きの中で農政を考えていくべきかなと思うところです。

一概に多いとか少ないとかいう判断ではなく、満遍に美郷町の農業者、林業者に生産意欲を持ってしてもらうがために、どういう方法がいいのか今後も考えていく必要があると思うところであります。

以上です。

【議長 那須 富重】

町長の答弁が終わりました。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

農業は一家三、四人で一生懸命働いて、毎月にお金が入ってこない時もあります。まとまって入ってくる時もあります。

しかし、毎月金が入ってこないと、なかなか今の世の中は生活ができない状態です。農業に関しても米は一作、牛は多頭飼育すればですけど。今から先の農業は、毎月お金が入ってくるような農業対策をしないと難しいのではないかと思います。そのことについて、町長は何か考えられているところはありますか。

例えば、野菜でも何でもいいのですが、毎月収入がないと生活できません。若い人がそういうあたりで入ってこないという面があります。農林振興課長でもいいですが、何か対策があれば、お考えがあればお伺いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 那須 富重】

町長。

【町長 田中 秀俊】

非常に難しい話ではありますが、結局人口が少ない減っているという問題が全てに影響していくのかなと思っております。

先ほど言ったように、いろんな産業がありますが、魅力がある産業にならないと担い手が育たないという話をしました。農業が本当に若者にとって魅力ある産業なのか。選択肢ですので、所得も含めて安定しないと担い手が育たないということも事実であります。

美郷町自体がこうするという考え方は、今のところ国がある程度の基本計画の中で謳ってそのとおりにやってほしい。根幹をなす食ですので、しっかりと考えていただきたいと思いますところでもあります。

1 地方公共団体がということではないと思ってしております。私はそうと思いますが、農業振興課長はどう思うか分かりませんので、聞いてみたいと思います。

【農林振興課長 松下 文治】

議長。

【議長 那須 富重】

農林振興課長。

【農林振興課長 松下 文治】

中島議員が言われることは、よく分かります。できれば一定の収入が毎月あればいいという話だろうとは思いますが、今の施策としては、地域おこし協力隊を募集するに当たって、複合経営、半農半X（半分は農業、半分は別の仕事に就いてもらう）という取組を行っているところであります。今そういう募集をかけています。

特にこの半農半Xについては、今、遊休農地も増えてきており、できればどこかに勤めていただきながら、片や農業をしていただくということも検討しております。さらに深く検討を進めてまいりたいと思っておりますのでございます。

以上でございます。

【議長 那須 富重】

答弁が終わりました。

【6番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 那須 富重】

6番、中嶋 奈良雄議員。

【6番 中嶋 奈良雄】

半農半業でも結構ですので、米も徐々に上がってきてます。仕事をしながらでも、米はある程度やっていけます。そういう方法で若い人が取り組んでもらえるような施策を取っていただきたいと思います。

これで、私の質問を終わりたいと思います。

【議長 那須 富重】

これで、6番、中嶋 奈良雄議員の質問を終わります。

以上で、本日の日程は全部、終了しました。

次は明日9月6日金曜日午前10時に本会議を開きますので、時間をお間違えないようにお願いいたします。

【議長 那須 富重】

本日は、これにて散会いたします。

【事務局長 沖田 修一】

「一同起立・礼」・・・お疲れさまでした。

(散会：午後2時20分)